

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美

いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。立春とは申しますが、まだまだ寒さ厳しき日が続いております。お元気でいらっしゃいますでしょうか？

ご承知の通り、2025年にはいわゆる団塊世代の方が「後期高齢者」に突入し、社会保障制度も今後大幅に変わってまいります。情報によりますと、次回平成30

年度の介護報酬改定では、自己負担を原則2割にすることを、2016年度末までに財務省が結論づけるとのこと。また、訪問介護事業においても、生活援助サービスを介護保険から外す方向で検討に入っているとのことです。

葛飾区では、本年4月より「日常生活支援総合事業」がスタート致します。足立区でも、同10月には総合事業に移行致します。今後、介護予防訪問介護・通所介護サービスが「介護保険サービス」ではなくなるわけです。現在は、要支

援1・2の方に限定されておりますが、今後はその範囲も広がるのではないかという憶測もあります。制度を維持させるためには、ある程度の削減は致し方ないと思えます。

とはいえ、私たち介護職にとっては、複雑な思いを禁じえません。いつも思うことですが、何よりも我が国日本を支えて下さった高齢者の方々が、安心して暮らせる社会であってほしいと、切に願うばかりです。

皆様、どうか風邪などひかれませぬよう、お気をつけ下さいませ。

サンライズの物語

その方に「もしものこと」があった時、あなたは冷静に対応できますか？
今まで培った知識や経験について、深く深く考えさせられ、もっと努力しようと胸に刻んだ物語

その方は、腎不全を患い、週3回透析をされており、食事や水分制限があった方でした。

とても自分に厳しい方でしたが、実に優しい一面があった方です。

最初お目にかかった頃はこちらも大変緊張して訪問したものでしたが、いつしかその方の優しさに触れ、魅かれてしまいました。

当初緊張しながら訪問していたのが、他のヘルパーからの「いつも井上さんがいつ来るのか心待ちにしているのよ」との話を聞き、いつしか私もその方を訪問するのが楽しみになっていました。

その矢先のこと・・・

透析の送迎のため、新しいヘルパーに引き継ごうと訪問したときのこと、朝から体調が悪かったとのことで、「透析の送迎をキャンセルして、病院まで送ってほしい」との言葉があったのです。

引き継ぎのヘルパーにお帰りいただく瞬間に、ショック状態に陥り、私は慌てて119番通報しました。

救急の担当者から「息はしていますか？」の問いに、

私は「呼吸が弱くなっています」と答えたら、担当者から「では、パッシングして下さい」と・・・

以前、講習会で消防士の方に心肺蘇生法を学んだことはあったものの、実際にやったことはありません。私は頭が真っ白になりそうでしたが、救急隊からの「枕を取って気道確保、肺をパッシングして口腔から息を吹いて！」と指示をいただき、必死に何度も何度も行って呼吸を確認しました。

しかし、再びショックが起き、とうとう呼吸が止まってしまったのです。私は、ヘルパーと一緒に頑張って「呼吸して！呼吸して下さい！」と何度も叫びましたが、涙ばかり溢れて、とても言葉になりませんでした。

救急隊より「心肺停止」と告げられた時は、愕然としたのを思い出します。

帰らぬ人となった亡骸が自宅へ戻った際に、私はヘルパーと一緒に訪問しましたが、娘様より「最期までありがとうございます。きっと、母は大好きな井上さんを待っていたんだと思います」と、感謝のお言葉をいただいたのには、少しだけ救われました。とはいえ、果たして自分が行った心肺蘇生法は正しかったのか・・・

人の命を預かっている私たち。介護職として、もっともっと勉強しなければならない。

そう心に誓った瞬間でした。

サンライズ・メイト・バート主催 2015年度第4回定例会を実施しました！

テーマ：「的確な記録の書き方」

講師：

株式会社Sol La Chick 代表取締役／精神保健福祉士 吉田 彩衣子様

去る2月10日（水）綾瀬プルミエにて、本年度最後の定例会を行いました。

記録がとても大事であることは、至極当たり前のことではありますが、それを再度周知徹底するため、事例を活用し実施した今回の研修。参加された皆さん、真剣そのものでした。



NEWS 今月のニュース

認知症の接し方学ぶ。タクシーの第一交通

タクシーの山梨第一交通グループ（甲府市富士見2丁目、精松徳紀社長）は14、15の両日、甲府・県地場産業センター「かいてらす」で、全乗務員を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開いた。

認知症について理解を深め、適切な接客をしようと初めて企画し、2日間で約200人が受講した。同社によると、全乗務員が養成講座を受けるのは、県内のタクシー業界では先進的な取り組みという。

15日は、講師が、認知症の症状や患者への接し方について説明。「驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないことが基本姿勢。高齢者を乗せる機会も多いので乗務の際に生かしてほしい」と呼び掛けた。患者がタクシーに乗車するとの想定で対応も



訓練した。

参加した高木義裕さん（44）は「認知症とみられる高齢者を乗せることもある。今後、学んだ知識を生かして冷静に対応したい」と話した。

<山梨日日新聞 2016年2月16日（火）>

今月の名言

たとえ、たとえですね、明日死ぬとしても、やり直しちゃいけないって、誰が決めたんですか？ 誰が決めたんですか？

古畑任三郎

超人気ドラマ「古畑任三郎」。ご覧になった方、多いのではないのでしょうか？

津川雅彦さん演じる「安斎亨」という作家が不倫をしている妻を犯人に仕立てて、殺人を装った自殺をしようとしたのですが、旧友である古畑に見破られて、自殺を思いとどまらせるというラストシーンで出た言葉です。

歳を重ねると、若い頃にはできたことが、段々できなくなってくるものです。介護が必要な高齢者の方にも、恐らくそう思われる方はいらっしゃるでしょう。

私たちはご利用者様に、この言葉でエールを送りたい！

そして、私たちもこのセリフにとっても勇気づけられます。



広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>